農村景観についての多様な認識

—三重県伊賀市調査から—

The Various Recognition about the Rural Landscape:
From Investigation in Iga-City, Mie Pref.

岩田 俊二*

Shunji IWATA

I はじめに

景観法は農村地域をも対象にしているが、農村地域の景観について何を対象に如何に計画するかについては、近江八幡市丸山地区の計画事例があるものの不明確である。農村景観の多様性や由来に根ざした農村景観の賛美については幾多の資料があるものの、景観計画の参考になるような基礎的な研究成果は少ない。伊賀市でも伊賀上野のお城周辺の城下町景観については早くから景観条例を制定し、施策を講じてきたが農村地域については全

く手つかずのままである。そこで、伊賀市農村地域の景観計画の基礎的資料とすべく、伊賀市農村の3地区を対象に農村地域の景観構成要素の分析、農村景観についての農村居住者の認識及び都市住民として三重短期大学学生の認識をアンケート調査及び農村景観の形成基準の検討を行った。この論考では農村地域の景観構成要素分析と景観認識に焦点をあてて、いわば「ふるさと景観」を農村地域の人は如何に認識しているか、その地域に無関係な都市住民が期待する農村景観とは何かについて述べてみたい。

表1 景観アンケートにおいて「地区の特徴を示している（地元住民向け）」及び「農村のイメージにあう（三重短大生向け）」の回答率が全設問全選択肢の平均以上の設問—比自岐地区—

景観区分		地元住民(回答率40%以上)										三重短大生(回答率50%以上)		
		全体	10～20才台	30～50才台	60才以上	男	女	会社員	農業者	学生	その他職業	全体	農村出身	都市出身
1. 農業・農業施設	1-1 集落前に広がる田んぼ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	1-2 山地前に広がる田んぼ	○		○			○	○		○		○	○	○
	1-3 畑									○		○	○	○
2. 宅地	2-1 塙のある宅地										○			
	2-2 集落													
	2-3 田んぼに囲まれる集落	○		○	○	○	○	○	○		○	○	○	○
3. 生活環境施設	3-1 小学校			○		○		○						
	3-2 公民館									○			○	
	3-3 集落排水センター	○		○	○	○	○	○	○		○			
4. 道	4-1 幹線道路								○					
	4-2 集落から伸びる農道				○				○		○	○	○	○
	4-3 集落内の曲がりくねった道路											○	○	○
5. 水	5-1 滝川ダム	○		○	○	○	○		○	○	○			
	5-2 比自岐川とあいらく橋													
	5-3 溜め池			○	○			○	○			○	○	
6. 緑	6-1 集落の周りに広がる山地	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	6-2 平地からみた山林				○		○				○	○	○	○
	6-3 農道と山				○					○		○	○	○
7. 歴史	7-1 比自岐神社	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	7-2 石碑	○		○	○		○	○		○	○			
	7-3 台風で折れた御神木	○	○		○	○	○	○	○		○			
8. 人文	8-1 美みの市の看板				○				○		○			
	8-2 弘法大師の植の木	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
	8-3 杉玉													
	8-4 清蔵寺の石仏	○		○	○	○	○	○	○		○	○	○	○
	8-5 清蔵寺の看板	○	○	○	○	○	○	○	○		○			
	8-6 酒屋の蒸溜塔	○	○	○	○	○	○	○	○	○				

* 津市立三重短期大学 Tsu City College

Key Words : 1) 農村景観, 2) 景観計画, 3) 景観認識

1 農地・農業施設

1-1 集落前に広がる田んぼ

2 宅地

2-1 塀のある宅地

2-3 田んぼに囲まれる集落

3 生活環境施設

3-3 集落排水センター

4. 道

4-1 幹線道路

4-2 集落から伸びる農道

5 水

5-1 滝川ダム

0% 10% 20% 30% 40% 50%

6 緑

6-1 集落の周りに広がる山地

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60%

7 歴史

7-1 比自岐神社

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70%

8 人文

8-2 柿の木

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70%

図1 比自岐地区景観アンケート（全員）結果の抜粋

II 研究方法

調査対象地域は伊賀市景観条例等の調査研究をしたことがある伊賀市を選択し、その農村地域とした。対象の農村集落は①種生地区－木津川の川上ダム予定地の上流にある山間集落、②比自岐地区－盆地状の平坦地集落で稲作を中心に集落営農が盛ん、③古山地区－名張上野街道沿いの山裾集落である。

1 景観構成要素の分析

ア. 景観構成要素の大分類は次のように設定し、この

大分類に基づき現地で写真撮影を行い、景観構成要素図を起こし景観構成要素を分析した。①農地・農業施設、②宅地、③生活環境施設、④道、⑤水・自然、⑥緑、⑦歴史、⑧人文。イ. 景観シーンを①遠景（大景観）②中景（中景観）③近景（小景観）に3分類し分析した。ウ. シーンを前景、主景、背景に分解し景観構成要素を把握した。

2 地区別の景観についての住民アンケート

景観構成要素の分析結果及び地区の区長さん等代表者との協議に基づき地区の特徴的で代表的な景観を設定し（種生地区 29 シーン、比自岐地区 27 シーン、古山地区

18 シーン), 15 歳以上の住民の意向をアンケート調査した。種生地区 73 名, 比自岐地区 85 名, 古山地区 95 名。分析単位は①全体, ②男女, ③年齢, ④職業。

3 地区別の景観について三重短大学生アンケート

同じ景観について都市在住者の意向を探るため, 三重短期大学生の意向をアンケート調査した。種生地区 67 名, 比自岐地区 48 名, 古山地区 61 名。分析単位は①全体, ②学生の実家の地理的な位置による属性(都市または農村出身者別)。

Ⅲ 結果

1 景観構成要素

種生地区は山間地域なので, 集落を囲む山, 棚田の大きな法面の草, 道が三大構成要素であり, 遠景から中景, 近景になるにつれて法面の草や棚田周囲の木々が細かく見えてくる。比自岐地区は集居状の集落居住地(家)を中心に周囲の大面积の水田とさらに平坦部を取り囲む山が三大構成要素である。遠景, 中景の背景は木(里山)であり, 前景及び主景には必ず田が見える。古山地区は谷筋の傾斜地にある集落なので, 木々, 道, 家又は水田の四大景観構成要素となっている。遠景では木々, 立地点の道, 遠望できる家々の混在する景観であり, 水田は小規模なためその他の景観構成要素に埋没し近景になるまで見えてこない。

2 景観アンケート

①種生地区－ほぼ全員の住民が種生の景観として特徴のあるとしたものは, 「里山の木が迫る宅地」, 「ホタル水路(自然水路)」, 「兼好塚(吉田兼好の庵の跡)」等設定し提示した景観シーンの中で多くある。一方, 種生の景観として特徴があるとはされなかったのは, 「圃場整備田」, 「農村公園」, 「避難場所」, 「桜の植林」, 「アジサイ」, 「手入れされている森林」, 「道路関係の景観」等である。年令別には, 60 才以上が他の年代よりも「地区の特徴を示している」とする景観が多く, 現状肯定的な景観認識である。30～50 才台が「ダムの付け替え道路」を挙げているのが特徴である。男女別の景観認識には大きな差異はない。職業別では, 農業者は 60 才以上の層よりも多くの景観を「地区の特徴を示している」として挙げている。三重短大生では, 農村出身者と都市出身者とは大きく違わないが, 都市出身者だけが「農村公園」, 「窮屈そうな道」, 「中山間地域整備事業石碑」を挙げた。

②比自岐地区－ほぼ全員の住民が特徴のある景観として

挙げたのは, 「集落前に広がる田んぼ」, 「集落のまわりに広がる山地」, 「比自岐神社」, 「弘法大師の柿の木」等である。しかし, 集落居住地(家)内の景観については, ほとんど無関心である。60 才以上はほぼ全部の景観について, 「地区の特徴を示している」と回答している。30～50 才台は「道」と「緑」の景観について, 「地区の特徴を示している」とするものが多かった。男女別の回答パターンは同じである。職業別には, 農業者と会社員とは同じような回答であるが, 会社員は農業・農村整備事業で整備され, 生まれた景観を挙げなかった。主婦が多い「その他の職業」が山林等の緑の景観を「地区の特徴を示している景観」として挙げているのが特徴的である。三重短大生については, 「農村景観のイメージにあっていく景観」として農村出身者だけが挙げた景観は, 「公民館(特に変哲のない建物)」, 「溜め池」であり, これらの施設の生活的又は生産的な意味を知っていることによると思われる。

③古山地区－ほぼ全員の住民が挙げた地区の特徴を示す景観は, 「小学校」, 「山林に囲まれた集落」, 「田守神社」, 「吉田寺」であり, 水田等の農地が挙がってこなかった。10～20 才台と 60 才以上の層の回答は同じで, 「地区の特徴を示している」景観として全般的に挙げた。しかし, 30～50 才台層は「宅地・道」の景観については, 「地区の特徴を示す景観」として挙げていない。壮年層にとっては, 狭く坂の集落道路や密集した宅地は交通上の問題として考えても, 集落の特徴的な景観としては考えられないということではなかろうか。女性は素直に「狭い水田」, 傾斜地にある「宅地・道」の景観を集落の特徴ある景観として挙げている。農業者は「地区の特徴を示す景観」として挙げた景観は全般的であり, 会社員やその他の属性よりも多く, 現状肯定的な景観認識である。三重短大生については, 農村出身者と都市出身者とはかなり異なる結果が出た。農村出身者の意向は地元住民の意向とほぼ同じであり, 都市出身者だけが挙げたのは, 「集落」, 「バス停(地元の手作り)」の景観, 水環境関係の景観, 「山や宅地が境界となっている狭い農地」の景観である。

④地元住民と都市住民(三重短期大学生)との景観認識の違いについて－比自岐地区(表1)の景観シーンを基に, 地元住民と都市住民の景観認識の違いについて調査結果の一部を説明する。

ア. 〈集落から伸びる農道〉(図2)

圃場整備によって集落から直線的に整備された農道は地元住民には広域交通幹線でもなく, 生産基盤施設のありふれた景観の1つとして注目されないが, 都市住民には直線的な農道と両側に広がる圃場の景観は一般化され

図2 集落から伸びる農道

図4 溜め池

図3 曲がりくねった集落内道路

た現代的農村イメージであり、景観認識に違いがある。
イ.〈曲がりくねった集落内道路〉(図3)

曲がりくねった集落内道路の景観は、地元住民には交通上不便で危険な道路であり、マイナスイメージが強い日常空間であり、取り立てて特徴的な農村景観として認識されないが、都市住民には集落空間の特徴を示す農村景観の1つとして認識される。

ウ. 溜め池 (図4)

比自岐地区に複数ある溜め池は比自岐川上流に滝川ダムが完成しているものの、現在も利用されている。溜め池の景観は地元住民、とりわけ農業者や高齢者には農業生産基盤施設としての有用性を認められても、地区全体としては取り立てて特徴的な景観としては認識されていない。しかし、実際には転落や洪水の危険があるものの都市住民には農村らしさを示す水辺空間として認識される。

IV まとめ

農村地域の景観は自然的な景観構成要素の比重が大きく、土地利用の維持管理が地域景観の質を決定する大きな要因である。集落の地理的条件や支配的な土地利用を示す農村景観が地元住民から特徴ある景観として、また三重短大生のうち農村出身者から農村のイメージに合う景観として認識された。三重短大生のうち都市出身者は己の農村景観イメージに合う農村景観を制約無く幅広く挙げていている。前者をいわば「現実的な景観認識」とすると、後者をいわば「本質的な景観認識」と言えるかもしれない。農村景観を問題にすると、「本質的な景観認識」が不適当であるとするのは容易には出来ないであろう。「現実的な景観認識」のみ取り上げるとすれば、景観形成の目標は低くなり景観保全や環境保全に留まりがちである。「本質的な景観認識」は農村地域の事情に疎く的確性にかけても新たな農村景観の形成への可能性を示している。今後、大変難しいが農村に期待される「本質的な景観認識」について吟味する研究も必要であり、その上で農村景観の形成は「現実的な景観認識」と「本質的な景観認識」をあわせて検討することから得られる新たな方針で臨む必要がある。

参考文献

- 1) 農林水産省 (2010) : 『農村における景観配慮の技術マニュアル—デザインコード活用手法—視点場設定手法—』

As for the landscape of the rural area, a natural landscape componentry holds big specific gravity. Therefore, it is the greatest factor that maintenance of the land use decides the quality of the landscape of the rural area. There are realistic landscape recognition by the rural resident and essential landscape recognition by the city inhabitants in the recognition about the landscape of the rural area. The code for the landscape formation of the rural area must be examined by these both sides.

Key Words : 1) Rural Landscape, 2) Landscape Plan, 3) Landscape Recognition